都高時報
第14号
都大附高新聞部
目黒区金町591
担任 太田 国男

意義あつた生徒大會

……解決つかない歌の問題……

去る二十日講堂で行われた生徒大会は記念祭を振り返って有意義な討論が行われた。即ち、生徒大会召集について石山副会長より説明があり、次に記念祭報告より一般報告並びに会計報告があってすぐに討論に入った。先ず一般的には、「共通の目的が欠けていて全校的なまとまりがなかった」、「他校と較べて協力自由があるにも拘らず、それをもってあそんでいる様で、積極的に他校に反映させて行こうとする意気が欠けていたのではないか」等の意見が発表されたが、演劇やファイヤー等の問題については次の如くである。

一、演劇について

「予算が多かったのではないか」、「予算よりもプロの劇団に欠点があった」、「劇を申し出たものはその意気を買って参加やらせるべきだ」、「制限には絶対反対だ」、「予算の点から言って制限すべきだ」等

一、一年生について

二年生から「一年はクラスとしての参加が多かった」等の意見が出されたが、結局共通の目的がなかった等に原因があるのではないか。

この他「女子」についての討論等があったが、最後に今後如何にすればよいかについて、協力な発行をつくれ、一般生徒と関係深い

国連協定について

解説時事

ものにせよ、社会情勢の圧迫によってやりにくくなる事を認識せよ等が述べられ、自治委から報告があり、閉会した。

明るい學園生活の為に

連合文化祭開催

うち声が各校の間に起まり、公私立十数校が参加、各二、三名の代表を選って、部落教連合文化祭実行委員会を組織、十月末から準備にとりかかっていたが、日本教育学生記念会、学園評論社の後援を得て十一月二十日（日）都立大学講堂で開かれることに決定した。

そこで本校では、自治委員会により2日間、1C前田を実行委員に、記念祭で好評だったわだつみ会の構成劇「原爆の時」を代表として選んだ。

文化祭は二十日午前十時から開かれ、実行委員長（戸山高代表）

主張　記念祭を顧りみて

とかく批判があるうが、都立の記念祭が過去、どのような歴史と伝統の上に打ちたてられて来たか、そして、この歴史と伝統が、現在の社会情勢の中にあってどのように発展的にうけつがれていかなければならないか、そして、来るべき年の記念祭をなどのためにも、もう二度ついて今年の記念祭を考える必要があるし、また今がその一番適切な時期でもあると考える。

即ち、学友諸君が待々の記念祭を通して「何かあの足りない気持がした」と感じをもらしていたが、それと共にファイヤーの時、一先輩が「今年の記念祭で川上君の死を忘れ去ってはいけない」と言ったわけである。そして、それから一年彼の叫んだ「平和」と「自治」は祖国の危機が民族の危機がいよいよ強く叫ばれるとき、かつて天皇制軍国主義の重圧下で「抵抗」の叫びをわずかにファイアの火に託したけで暗い戦争の谷間へ葬り去ろうとする策略がなかなりあったが、先輩達の歩んだ道を再びくりかえさないために「抵抗」を口にしているだけでなく、はっきりと祖国の現実に目をむけ眼前と闘う以外に吾々の生きる道はないという事を示してくれたのではなかったろうか。

吾々の記念祭の根幹の中には平和に生きようと欲する叫びがあってこそ、はじめて、新しい物を創造し、また、今年の記念祭を通して、一人一人が新しい自覚のために別れ去ろうとする気分をなくすることが、先ず第一歩ではないか。

祖国が正面の危機に会している時吾々の学校が主張が学園という砂をつき破って祖国を解放するための——真に日本人として生きる叫びとなって、吾々はもっと本質的なものを忘れてはいなかっただろうか。

吾々はもう一度冷静に川上君の死を考えて見ようではないか。

ヒルとデカダンの無秩序に対して敢然として立ち上り祖国のおかれたきびしい現実に、目を向け「平和」と「自治」を叫びつゝ自ら力つきて倒れていった彼の死を今までのマントとコンパで代表された古い都立の伝統は彼の死によって新しい自覚のために別れ去ろうとするわけである。そしてそれから一年彼の叫んだ「平和」と「自治」は祖国の危機が民族の危機がいよいよ強く叫ばれるとき、かつて天皇制軍国主義の重圧下で「抵抗」の叫びをわずかにファイアの火に託すだけで暗い戦争の谷間へ葬り去ろうとする策略がなかなりあったが、先輩達の歩んだ道を再びくりかえさないために「抵抗」を口にしているだけでなく、はっきりと祖国の現実に目をむけ眼前と闘う以外に吾々の生きる道はないという事を示してくれたのではなかったろうか。

吾々の記念祭の根幹の中には平和に生きようと欲する叫びがあってこそ、はじめて、新しい物を創造し、また、今年の記念祭を通して、一人一人が新しい自覚のために別れ去ろうとする気分をなくすることが、先ず第一歩ではないか。

祖国が正面の危機に会している時吾々の学校が主張が学園という砂をつき破って祖国を解放するための——真に日本人として生きる叫びとなって、吾々はもっと本質的なものを忘れてはいなかっただろうか。

吾々はもう一度冷静に川上君の死を考えて見ようではないか。

ヒルとデカダンの無秩序に対して敢然として立ち上り祖国のおかれたきびしい現実に、目を向け「平和」と「自治」を叫びつゝ自ら力つきて倒れていった彼の死を今までのマントとコンパで代表された古い都立の伝統は彼の死によって新しい自覚のために別れ去ろうとする気分をなくすることが、先ず第一歩ではないか。

六三型の新聞に

懇談会に出席して

去る廿三日、赤坂宮西校で行なわれた編集者懇談会に我部から

交流と親睦のために

本校で開催

西部高校連絡協議会

新学年始めに皆が同じ委員会が東京西部の両校に呼びかけて、西部両校生徒会連絡会を構成したがその後現状上の無理な点や、義務的な不備のために疑れた形になっていたのを、もう一度、両校間の交流と親睦のために来る12月6日(土)本校において懇談会を持とうと郷外で準備がすゝめられている。

今度の会議は前の西部両連の親和にしはられず、各両校の生徒委員会、学内クラブ、サークル等からふるく代表が集まって、自治活動やクラブ活動で感ずにぶつかっている問題を、各校の体験の交換の中で解決し合っていこうとするのが主眼でその他文化祭や各学校間を超えて知り合うための色々の活動等多方面にわたって協議される。

本校の生徒大會を見学

二十日の生徒大会を見学のため八校学園から十数名が来校し、感想を次の様に語っていた。

尚、当日の演本先生に関する記事を「演本先生の無理解な」の二行はすく除します。

▲記念祭もとうやら終ったが、記念祭前には例年のことであろうが一年生の間では「記念祭の意義は何であるのか」「記念祭とは何かということがやかましく論議された。▲そして、これに満足な回答を与える者が出来た者は数人も、二、三年にもいなかったことは発足出来ない。▲わからないまゝに記念祭は日一日と迫ってきて、そのまゝ記念祭になってしまった。▲ところが、過日の生徒大会でも言われた通り、今年の一年は案外良く活動した。これは一見良いしているかの様にみえる。▲換言、大部分の生徒は意義がわからないで、参加してみなければ記念祭の意義などはわかる筈がない」と自分自身に弁明して参加したのである。▲さて、記念祭は終った。それで参加してみて、その意義を理解出来た人は何人居たであろうか。▲しかし、二・三年の人たにしても、ハッキリと意義を知っていて、目的を意識して参加した人が居るであろうか。▲こういったことの積重ねが"目的がハッキリせず全般的なまゝまとまりに欠けていた"ということに流れてきたということは確かである。▲目的がハッキリしないということだけでなく、目前を目的を定めて、その目的に向って全力をつくそうというのが普通であろう。▲来年からはこういう点、全生徒がとりくり考えてみるべきではないか。

編集後記

▲記念祭もとうやら終ったが、記念祭前には例年のことであろうが一年生の間では「記念祭の意義は何であるのか」「記念祭とは何かということがやかましく論議された。▲そして、これに満足な回答を与える者が出来た者は数人も、二、三年にもいなかったことは発足出来ない。▲わからないまゝに記念祭は日一日と迫ってきて、そのまゝ記念祭になってしまった。▲ところが、過日の生徒大会でも言われた通り、今年の一年は案外良く活動した。これは一見良いしているかの様にみえる。▲換言、大部分の生徒は意義がわからないで、参加してみなければ記念祭の意義などはわかる筈がない」と自分自身に弁明して参加したのである。▲さて、記念祭は終った。それで参加してみて、その意義を理解出来た人は何人居たであろうか。▲しかし、二・三年の人たにしても、ハッキリと意義を知っていて、目的を意識して参加した人が居るであろうか。▲こういったことの積重ねが"目的がハッキリせず全般的なまゝまとまりに欠けていた"ということに流れてきたということは確かである。▲目的がハッキリしないということだけでなく、目前を目的を定めて、その目的に向って全力をつくそうというのが普通であろう。▲来年からはこういう点、全生徒がとりくり考えてみるべきではないか。

月刊
日本社會タイムス
社会タイムスは「日本の良心」であり「日本の平和と独立を守り、真実を語る」日刊新聞として、平和の旗を掲げ公正確実に、平易に報道しています。またわが国のリベラリスト・ヒューマニスト・中小企業、家庭の主婦、労働者の味方として闘っています。
申込は本社及び支局・新聞共販店
社長 青野季吉
主な評論家 清水幾太郎・向坂逸郎・武谷三男・中村建城・長洲一二・久野収・羽仁五郎・大内兵衛・都留重人・木村禧八郎
日刊 日曜 日刊 極東 日刊
夏30円 夏40円 冬40円 冬50円 冬60円
東京都港区西新橋1の6
社會タイムス社
電(43)5969・4356 振替東京180432

御買物は柿ノ木銀座商店街で
下大立都
毛糸、ボタン、服飾品
ナラヤ洋裝店
柿ノ木銀座
技術と傳統を誇る
なら服
ユッチトム洋服店
柿ノ木銀座
輸入品専門の店
みのりや
柿ノ木銀座
お靴の新調
修理、販賣
高橋靴店
柿ノ木銀座
斬新な感覚と
技術の店
しんばし理髪店
柿ノ木銀座
御勉強の疲れを治す
アメとお菓子は
はとや
柿ノ木銀座
おくすりは
明正堂藥局
柿ノ木銀座
流行のトップ高級洋品
冬物仕度は
ソラ洋品店
柿ノ木銀座
野菜果物(リンゴ、ミカン)
淺野青果店
柿ノ木銀座

開国と国民意識

大石修平

中国から

桃根城

アイヌの叙事詩について

岡本一彦

新聞記事を読むまで

合田正彦

絶賛發賣中!!

山本茂實著　★お待たせしました!

嵐の中の人生論

★醫學博士　加藤咄堂氏

人生は「嵐の中のサクラこだ」と言う人もあるが、サクラこだってよいではないか。嵐の中でこそ咲きほこるサクラこそ、人生の理想ではないでしょうか。

予想以上の大反響にお答えして、ここに再版なりました。

東京文京区　春陽堂書店　振替東京15　1921193

新刊圖書參考書
八雲堂書店
都大阪駅前

12月2日―8日
征服への道
同時上映
氣まぐれ天使
目黒ケ丘　武蔵野館

新刊書籍雑誌
中村書店千支堂
目黒学藝大学三軒茶屋駅

いつもスバラシイ味"量の
王家のパン
都立大学下王家通

クスリ　計量器
中村藥局
都立大学駅前西口大通
電話(08)三九五四

時計修理・メガネ
安田時計店
都大阪駅下

第一四号　一九五二年一月二〇日